

SEMI C16-0299 (Withdrawn 1110)

精度およびデータ報告作業の方法のガイド

NOTICE: This translation is a REFERENCE COPY ONLY. If differences should exist between the English version and a translation in any other language, the English version is the official and authoritative version.

免責事項： この SEMI スタンダードは、投票により作成された英語版が正式なものであり、日本語版は日本の利用者各位の便宜のために作成したものです。万が一英語と日本語とに差異がある場合には英語版記載内容が優先されます。

SEMI スタンダード日本語翻訳版をご利用にあたっての注釈を本文の末尾に記載しております(「すべきである」「しなければならない」について等)。

本スタンダードは、Liquid Chemicals Global Technical Committee で技術的に承認されている。現版は 2010 年 8 月 27 日、global Audits and Reviews Subcommittee にて発行が承認された。2010 年 11 月に www.semi.org で入手可能となる。初版は 1997 年発行。前版は 2005 年 03 月発行。

注意： この文書は 2010 年に撤回のために承認され、承認されました。

1 目的

1.1 プロセスケミカルまたはガスの SEMI 仕様をサポートするデータの精度およびデータ報告作業方法に対する最小限のガイドラインを提供する。

2 範囲

2.1 このガイドは、プロセスケミカルまたはガス SEMI 仕様の確定または SEMI 仕様に照らした性能の確認を支えるために収集されたデータに適用される。

注意： このスタンダードおよび安全ガイドラインはその使用に関連した全ての安全上の問題を取り扱うことを意図していない。この文書の使用者は、その責任において、適切な安全および健康上実施すべき事項を決定し、また使用前に法規制やその他の制限への適用性を判断するものである。

3 参照スタンダード

3.1 SEMI スタンダード

SEMI C1 – Specifications for Reagents

注意： 別途指示のない場合、引用された全ての文書は最新版を指す。

4 用語

4.1 なし。

5 スタンダード

5.1 この調査で使用される各スタンダードに関し、下記が報告されるものとする。

5.1.1 分析前の調製方法 (例えば、希釈、蒸発)

5.1.2 サンプルマトリクス

5.1.3 濃度

5.1.4 n = スタンダードに対して行われた定量数

5.1.5 n 定量の標準偏差

5.1.6 n 測定 ($n > 1$ の場合) の標準偏差

5.1.7 観測された値 ($n > 1$ の場合) の標準偏差

5.1.8 スタンダードのトレーサビリティ

5.1.9 スタンダードが内部で作成された場合、どのように作成されたか。

6 サンプル

6.1 回復調査を含むすべての報告されたサンプルの結果に関し、できる限り多くの適用されるスタンダードに対する報告上の要求事項を用いる。

7 検出限度

7.1 検出限度が報告される場合、特定限度が得られた特定の方法または公表された改訂版を指定する。検出限度の決定において使用された最低スタンダードのレベルを報告する。

8 内部標準

8.1 極低温トラッピング、酸抽出、蒸留、加水分解などによる分析物の濃度を要する手順に関しては、方法確認 (SEMI C1 を参照してください) に基づく回復調査が必要とされる。実用的な方法に関しては、75%~125%の範囲の回復が推奨される。

9 校正モデル

9.1 校正データのスパンは、関連仕様を含むものとする。

9.2 校正モデルの形式 (ラインからオリジンまで、ラインなど) が明示されるものとする。分析計に対する2点 (ゼロとスパン) への依存が基礎を成す直線性の仮定は、その仮定の基礎を報告することにより正当であることが証明されるものとする。

9.3 校正モデルを開発するために、使用されたスタンダードのリストが提供されるものとする。

9.4 使用されたフィッティング技術 (すなわち、最小二乗法、加重最小二乗法、部分最小二乗法を使用した回帰) に関する情報が提供されるものとする。

9.5 もしあれば、校正モデルのフィッティングの前に校正データに使用された変換を識別する。

9.6 校正を定めるためにモデルとされた反応を識別する (すなわち、ピーク面積、ピーク高さ、反応要因)。

9.7 採用されたスタンダードのタイプのリスト (すなわち、内部標準、外部標準、標準追加方法) を提供する。

9.8 分析結果の作成に校正データがどのように組み入れられているかについて報告する (すなわち、ゼロとスパンの補正、グラフ)。

10 方法の精度

10.1 方法の精度の評価は、仕様レベルで提供されるものとする。方法の精度に影響を与え得る既知の干渉物または要因を明示する。